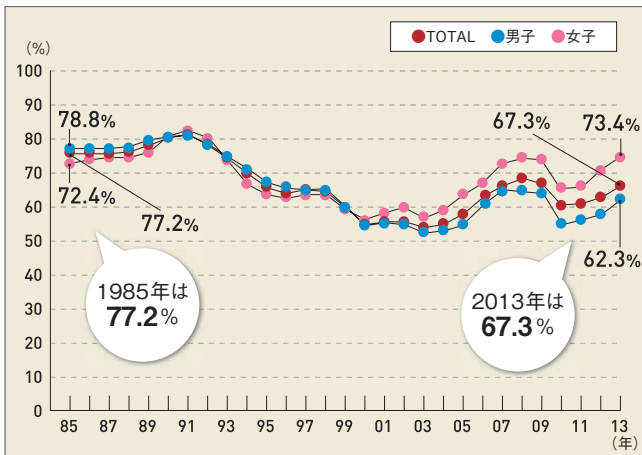


保護者の知らない 大学の今

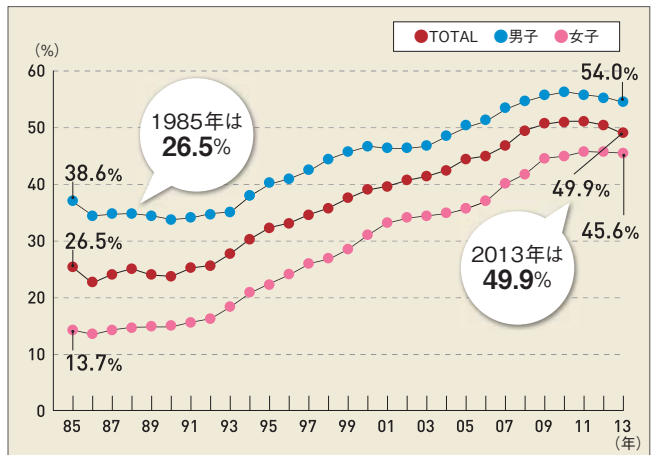
保護者が知っている大学と現在の大学とでは、さまざまなことが大きく変化しています。
お子さんの進路選択をサポートする際の基礎知識として、大学や大学生の状況を理解しておきましょう。

【図3 大卒就職率】 上昇機運だが約30年前よりは低い



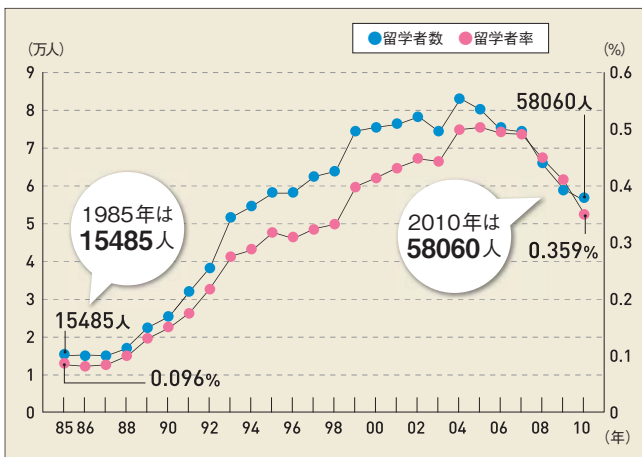
出典：「学校基本調査」文部科学省(平成25年度)

【図1 大学進学率】 約30年間に20ポイント以上増加



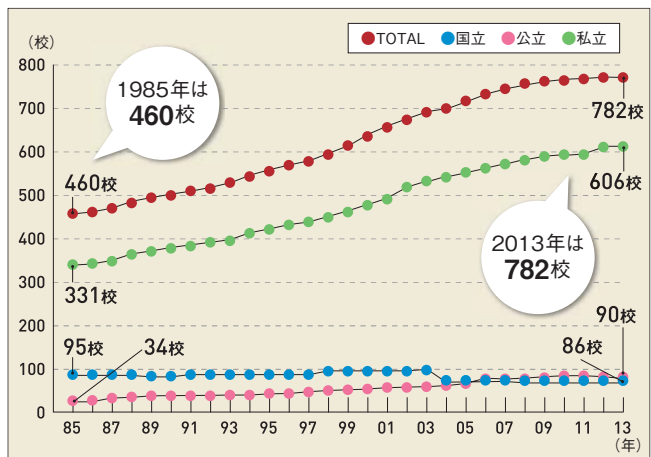
出典：「学校基本調査」文部科学省(平成25年度)

【図4 海外への留学者数と留学者率】 約25年前よりは増加



*留学者率=留学者数/20代人口 出典：文部科学省集計、国勢調査

【図2 大学数】 約30年間に300校以上増加



出典：「学校基本調査」文部科学省(平成25年度)

女子の大学進学率は 保護者世代の3倍以上

つくば科学万博が開催された1985年(昭和60年)、大学進学率は27%でした(図1)。大学に行く人は高校生の4人に1人だったわけですが、現在は50%で2人に1人。その間、女子の大学進学率は3倍を超える増加率となりました。

大学進学率が上昇した大きな要因のひとつは、大学数が増えたことです。85年に460校だった大学数が、現在は782校(図2)。約30年間に322校増えました。国立は95校から86校へ減少しましたが、公立は34校から86校へと3倍近い増加。私立は275校も増加しました。

85年の大卒就職率は77%(図3)。直後に「バブル景気」が訪れ、その崩壊とともにやって来た「就職氷河期」や「リーマンショック」といった困難を乗り越え、現在は67%に回復。しかしグローバルな企業間競争も激しさを増す中、あまり楽観はできない状況が続いているといえるでしょう。

海外への留学者数は、5万8000人(10年度、図4)。とかく「内向き」といわれる現代の若者ですが、85年の4倍に近く、留学者率も同様に高い。けれども、ここ数年右肩下がりの傾向は、やはり少々心配です。